



野生植物研究所だより



●自然探検倶楽部・蕪栗沼で観察会●

さる11月26日土曜日、田尻町の蕪栗沼で古川中央公民館主催の自然探検倶楽部の(今年度最後の)観察会が行われました。

【蕪栗沼・ラムサール条約に登録】

田尻町の蕪栗沼は、マガンやヒシクイ、オオハクチョウなどいろいろな種類の渡り鳥が何万羽と飛来するところで、県内でも栗原市の伊豆沼・内沼とともに有名なところです。その蕪栗沼が、11月8日にラムサール条約に登録されました。今回の登録では、蕪栗沼だけではなく、耕作している周辺の水田も条約に登録されています。これは大変画期的なことで、蕪栗沼の自然環境を未来に残していくために活動している「蕪栗ぬまっくらぶ」の皆さんはじめ、地域住民及び水田を耕作している皆さんの大きな理解と協力の大きな成果であると思います。「冬水たんぼ」をご存知ですか。蕪栗沼周辺の田んぼでは稲刈り後、冬場水田に水を入れ、そこをガンカモ類のねぐらとして利用してもらおうという考えで「冬水たんぼ」を実施しています。ガンカモ類の糞などは貴重な肥料になるということで「冬水たんぼ米」として販売されています。

【蕪栗沼で観察会】

8時30分過ぎ古川中央公民館を2台のマイクロバスで出発、9時過ぎ蕪栗沼の駐車場につきました。天気恵まれぼかぼか陽気のなかでの観察会の始まりです。駐車場の片隅に集まり、千葉副館長さんより挨拶があり、その後私から蕪栗沼がラムサール条約に登録されたこと、冬水たんぼのこと、沼及び周辺に見られる植物についての説明をしました。続いて日本野鳥の会会員でもあり、昨年も化女沼で指導していただいた瓜生さんに蕪栗沼で見られる渡り鳥やその生活などの説明をうけました。駐車場からは、鳥たちの餌場として放置され様々な植物が生えている湿地が見えるだけで、そこには鳥一羽見ることが出来ません。水鳥がいる沼まで15分ほど歩かなくてはなりません。歩きながら、ノイバラやヘクソカズラ、ノブドウなどの種子を観察していきました。途中歩道の脇の藪の中に直径50cm以上はあると思われるスズメバチの巣を見つけました。巣の出口にはまだスズメバチがいます。大変危険なので巣からできるだけ離れて歩くように話し沼の在るところまで進みました。



そこからは瓜生さんの出番です。沼の向う側の草原に何十羽とオオヒシクイがいます。瓜生さんは望遠鏡をセットしオオヒシクイの説明をします。双眼鏡を持ってきた子は双眼鏡をのぞき込みます。オオハクチョウも何十羽と羽を休めています。オオハクチョウの親と今年生まれた幼鳥の羽の色の違いや見分け方などの説明を聞きながら観察しました。遠くの高い木にオジロワシが止まっていました。尾の羽が白いのが一際目立ちます。アオサギやヒシクイ、マガンも観察することができました。子供たちの中には植物の種子を集める子やこの実は何ですかと聞きにくる子が何人もいました。種子の中で特に目についたのはノイバラ、ヘクソカズラ、クコ、ノブドウ、アカネ、クズなどです。11時15分過ぎバスに戻り始めたのですが、帰りがけも様々な種子を観察しながら戻りました。今年5回の観察会がありました。最後の観察会は天気にも大変恵まれ無事終了することができ本当に良かったと思いました。



草原のオオヒシクイ



鳥たちの餌場



ヘクソカズラの実



クコの実



アカネの実



ノイバラ

【連絡先】〒989-6252 宮城県古川市荒谷字簗ノ子町12-2 ☎ 0229-28-3601 FAX 0229-28-4452

Blog: <http://plaza.rakuten.co.jp/wakichi/> E-mail: nagaguduwakichi@yahoo.co.jp

URL: <http://www.wakichi.com/>